

# 現市役所は、まだまだ数十年は使えます！

ワンストップ・サービス、1カ所で用が足り便利に？→市役所から遠くなる地域が増えるだけ

◆久喜市議会では、2月定例会で「久喜市総合複合施設整備検討委員会条例」が可決し（共産党は反対しました）8月6日まで委員を募集。そこで基本構想の策定・整備について調査・審議されるといっています。  
 ◆しかし、策定された個別施設計画のくわしい内容が市民に知らされていないことが、最大の問題です。市民負担や暮らしへの影響が大きすぎます。

## ◆党議員団の意見

☆使える建物は、長持ちをさせながら、ずっとだいに使う。市役所は6年前、**耐震補強に11億円**かけたばかりです。もったいない！

## 行政機能

**疑問**・市役所はどこに移転するの？

**答**・不明です！各地域からの交通網整備（アクセス）も不明！

☆新築費用は **85億円！**

## 市役所、建て替えへ？（2026年以降に）

**現市役所はまったく健全！**  
 ◆9月議会において、劣化診断でも極めて良好な状態であると認めました。診断の1つ「中性化試験」では、「38カ所のうちゼロが32カ所。他もわずかな数値で、コンクリートのアルカリ度が健全との結果が判明！」

### 保健センター



中央保健センターは**除却**  
 新市役所そばに建て替え



栗橋保健センター  
 2026年以降に**除却**



菖蒲保健センター  
 2026年以降に**除却**へ



鷺宮保健センター  
 2026年以降に**除却**へ

26年以降に  
**支所機能は縮小へ！**  
**菖蒲総合支所**



栗橋総合支所  
 2024年**除却**し、栗橋市民プラザ（新築）に縮小して移転へ



鷺宮総合支所  
 2026年以降に**行政機能廃止**へ  
 支所機能は、新市役所に移転か？

国・総務省、財務省の意向によるリストラ計画です！

## 提案します！

- ◇市民サービスの水準は下げないで守る！
- ◇主な公共施設は、耐震診断を行い、長寿命化計画を立てる！
- ◇子育て支援・若者定住促進策で人口減少にストップをかけます！

国は、全国の市町村に対し、将来の人口減などを見据え、公共施設の管理計画を立て直すよう指導をしてきました。リストラの推進です。  
 ◆市は庁舎建て替えを軸とする「新総合複合施設整備事業」を、2年程度で基本構想・基本計画策定に取り組みます。集約化する施設や工程、手法などを議論する場として、本年度下半期をめどに検討委員会を立ち上げる。「合併推進債」を使える29年度までの完了が目標。  
 ◆3月に策定した個別施設計画では、市役所新庁舎を建設し、分散する行政機能（支所）を集約化する方針を掲げました。新庁舎に併設する保健・子育て複合施設（保健センター）開設も描いています。  
 ◆保健・子育て施設の削減は中央、菖蒲、栗橋（鷺宮保健センター）（ファミリーサポートセンター）、久喜地域子育て支援センターなども対象に。  
 ◆各支所・保健センターとも、今市民が使っている大事な施設です。市民にとっては、地域の財産であり、暮らしを守る拠点です。サービスの低下になる統廃合には反対です！

将来の人口減や財政難を理由にした「統廃合」

日本共産党久喜市議団（195号）

## 市議団ニュース

杉野 修 58-9010 渡辺昌代 21-9058  
 石田利春 52-7260 平間益美 23-9519

私たちは  
考えます！

# 公共施設は「市民の財産」！だいに使うのが常識！



「地域の問題」やして考えましょー！

## ◆通所型障がい者施設◆

※市は「社協」「敬和会」に指定管理委託している施設は「譲渡」し、事業は廃止（撤退）する考え。

★事業者も保護者も困惑。事業が安心して継続できるよう、最低でも、これまで通りの条件を提示すべきではないでしょうか？

★障がい者福祉事業は市に公的責任があるはず。



その他・事業のサービスマンそのものを行わない

## ◆公民館をコミュニティセンターに変える◆

※市は、社会教育施設としてではなく、コミセンにして貸館事業に変える考えです。

★しかし、公民館は「学びを地域に還元する学習施設」です。

★「社会教育に精通した職員と市民が共に育ちあう場」なのです。



## ◆保健センター◆

「市に1か所で良い」という理由（他は余剰施設と見ている！）

★合併前から、そして特にこの間、コロナ禍で、保健センターは重要な役割を果たしてきています。各種健診も含め、だいにあり廃止という選択は「ありえません！」

★「地域にひとつの保健センターは必要！」



その③市内に1か所で良い、の理由で統廃合へ

## ◆温水プール◆

ごみ焼却の熱利用で「温浴施設」

※市は「プールは市内に1つで良い」という理由から、既存のプールは廃止へ。

★そもそも、プラスチックを分別せずに燃やす計画がおかしい。時代の流れに逆行している！今からでもやめるべきだ

★鷺宮と菖蒲のプールは「2026年以降に除却（とりこわし）くりはしB&Gは2030年以降に除却。」

★地域での利用者は多く、利便性を向上させる工夫や努力が必要です！

## ◆福祉センター◆

※市は「合併前からの施設で温浴施設ができ、維持費用がかかるので廃止する」

★費用などは合併前からわかっていたことであり、なぜ、今になって言い出すのか？ これまで 多くの高齢者に使われ、喜ばれています。もっと「高齢者にも優しい街づくり」をしましょう！

☆地域で親しまれている福祉センターとして大事にして行きたいものです。



その②新ごみ処理施設建設の影響で・統廃合へ

## ◆集会所◆

※特に、旧久喜地区に地元住民の活動拠点としている集会所について、地元譲渡・廃止を迫っています。

★譲渡後の維持管理の労力や、財政負担を考えるなら、「譲渡」は困難です。市民に無理難題を押し付けることはすべきではありません。

★教育集会所の譲渡も、地元負担が大きく、統廃合はやめるべきです。

◆公共施設のこれらについて、今後はアンケートも予定しています。  
多くの皆さまからのご意見、ご提案をお待ちいたします。

「意見を



予防保全  
に転換を！

◆「劣化診断調査」を行い、定期修繕を実行し、長寿命化を図り、予防保全に転換することが、市民の財産である公共施設の管理責任を任された市のとるべき正しい方針です。

事後保全は「劣化したら直す」という「その都度対応」これでは、責任ある管理はできません。

市役所は、まだ数十年使えます！  
◆久喜市は、計画的な修繕ではなく「問題が起これば直す」という「事後保全」のやり方をとってきました。

通常、鉄筋コンクリートのビルの耐用年数は、60年くらいといわれます。しかし、建築業界などでは、耐震補強や、定期的な大規模修繕をやれば、百年は使える。というのが定説です。

建築物の  
耐用年数は

◆通常、鉄筋コンクリートのビルの耐用年数は、60年くらいといわれます。